

農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定に基づき、公表します。

三田市長 田村 克也

市町村名 (市町村コード)	兵庫県 三田市 28219
地域名 (地域内農業集落名)	三田 (上深田)
協議の結果を取りまとめた年月日	令和8年1月14日 (第4回)

注1:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

注2:「協議の結果を取りまとめた年月日」欄には、取りまとめが行われた協議の回数を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域農業の現状及び課題

- ・集落内の農業者の高齢化が進む中、担い手の確保が難しく持続可能な農業を維持することが課題となっている。
- ・地域内農地は、ほ場整備がほぼ完了しており、放棄田の発生はほとんどない。
- ・担い手の高齢化も進んでいることから、さらなる農作業の省力化が求められてくる。

(2) 地域における農業の将来の在り方

- ・引続き、酒米(山田錦等)と普通米(コシヒカリ等)の水稻栽培を中心とする。
- ・農作業の効率化を図るため、スマート農業を進めていく。
- ・放棄田、放棄畑を引き受けるために営農組合の存続に力を入れていく。
- ・収益確保のために高収入作物の栽培について検討を行っていく。

2 農業上の利用が行われる農用地等の区域

(1) 地域の概要

区域内の農用地等面積	16.2 ha
うち農業上の利用が行われる農用地等の区域の農用地等面積	15.9 ha
(うち保全・管理等が行われる区域の農用地等面積)【任意記載事項】	ha

(2) 農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方(範囲は、別添地図のとおり)

農振農用地区域内の農地を農業上の利用が行われる区域とする。

注:区域内の農用地等面積は、農業委員会の農地台帳等の面積に基づき記載してください。

3 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項

(1)農用地の集積、集約化の方針
担い手への農地集積を進めていく。
(2)農地中間管理機構の活用方針
農地中間管理機構を利用して段階的に集積・集約化していく。
(3)基盤整備事業への取組方針
ほ場整備事業が実施済みであるため、基盤整備事業の取組みは考えていない。
(4)多様な経営体の確保・育成の取組方針
地域の農地は地域で守っていくことを基本とするため、若手の担い手や規模拡大意向の農家を募る。若手オペレーターの育成を行うとともに、スマート農業の導入を検討する。
(5)農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の活用方針
豊富な知識と経験を有している農業協同組合と連携し地域農業をさらに発展させる。作業の効率化が期待できる防除作業は農業協同組合への委託を行っていく。水稻の乾燥調整作業は農業協同組合への委託を行う。

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組方針を記載してください)

<input type="checkbox"/> ①鳥獣被害防止対策	<input type="checkbox"/> ②有機・減農薬・減肥料	<input type="checkbox"/> ③スマート農業	<input type="checkbox"/> ④畑地化・輸出等	<input type="checkbox"/> ⑤果樹等
<input type="checkbox"/> ⑥燃料・資源作物等	<input type="checkbox"/> ⑦保全・管理等	<input type="checkbox"/> ⑧農業用施設	<input type="checkbox"/> ⑨耕畜連携等	<input type="checkbox"/> ⑩その他

【選択した上記の取組方針】

--